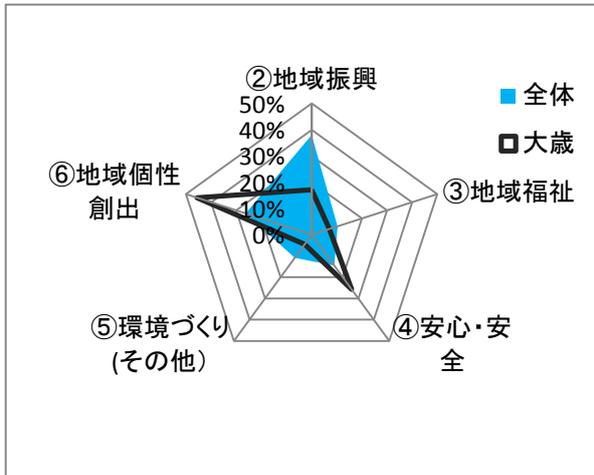


# 大歳地域自治振興会 地域づくり交付金事業概要(平成27年度)

## ■地域の情報

地域人口	13,387人	自治会数	28
世帯数	6348	自治会加入率	63.86%

※数値は、平成28年4月1日のもの



## ■決算状況

交付金配分枠	11,571,000 円
交付金決算額	10,923,000 円
その他収入	37,604 円
交付金決算額/配分額	94.4%

## 各分野の決算

①協議会運営	3,994,446 円
②地域振興	951,505 円
③地域福祉	390,862 円
④安心・安全	1,426,906 円
⑤環境づくり(土木工事)	1,416,000 円
⑤環境づくり(その他)	250,169 円
⑥地域個性創出	2,530,716 円
決算総額	10,960,604 円

## ■地域づくりの活動方針(テーマ)

大歳地区の住民が生き生きと安心して暮らせる住みよい地域づくりを推進する。

## ■総括

平成26年度に策定した第2次地域づくり計画であるが、個々の事業の活動状況では一定の成果を上げている。しかし、1次計画から通算して7年目になると当初策定した主旨(地域のふれあい促進)が薄らぎマンネリ化している感もある。今後は、地域づくり広報誌「かわら版おとし」の掲載内容を工夫し、タイムリーに身近な情報として住民に届け、住民の参加意欲アップを図りたいと考えている。地域づくりの中核となる人材の育成は、大きな課題である。当地区は、若い世代の転入が多く、子ども達も増えており、たくさんの活動を通じて次世代へのバトンタッチを模索したいと考えている。

## ■分野別事業名

① 協議会運営	事務局長1名、事務員2名の人件費および事務費
② 地域振興	地域情報の収集と発信、あいさつ運動の推進
③ 地域福祉	高齢者支援体制の充実、子育て支援の充実
④ 安心・安全	生活安全(防犯)対策の充実、交通安全対策の充実、災害安全対策の充実、見守り体制の充実
⑤ 環境づくり	環境美化活動の推進、法定外公共物等の整備
⑥ 地域個性創出	自治会内の交流促進、地域内の交流促進、住民総参加による地域の活性化、花いっぱいの大歳づくり、交流列車おとし(大歳駅)の活用

## ■重点的に取り組んだ事業

①	事業名	自治会内の交流促進	決算額	766,858円
	目的	自治会内で実施される交流事業への支援を通して、地域コミュニティの活性化を図る。		
	実施内容	①1自治会1事業支援(1自治会限度額:2万円) ②一斉清掃参加自治会への支援(1自治会基礎額5千円+参加者数1人あたり百円) ③ラジオ体操実施自治会への支援		
	実施時期	①通年、②10月第3日曜日、③夏休み期間		
	参加人数	①877人(17自治会)、②2,569人(27自治会)、③5,561人(11自治会)		
	成果	実施自治会においては、当該事業が定着し、地域のコミュニティの醸成がなされている。		
	評価	実施自治会が固定化されており、 <u>広がり</u> が停滞している。未実施自治会個々の事情はあると考えるが、それらに対する細やかな対応が不足している。		
	今後に向けて	未実施自治会への活用促進を図る。		
②	事業名	あいさつ運動の推進	決算額	168,454円
	目的	住民間のあいさつを促進し、コミュニティの基盤強化を図るとともに、世代間の交流促進。		
	実施内容	あいさつ標語の幟旗の掲示や見守り隊やPTA等による登下校時の児童への声かけ		
	実施時期	通年		
	参加人数	見守り隊(53人)、大歳小PTA等		
	成果	大歳地域全域で標語の幟旗が掲示され、意識の醸成はなされている。また、見守り隊も毎日継続的な取り組みがなされ、地域での定着が進んでいる。		
	評価	幟旗の掲示は全域で取り組まれており、活動の定着化が見られる。見守り隊等による児童生徒への声かけも毎日の恒例行事となっている。ただし、実際に活動される見守り隊の人数は固定化されており、 <u>更なる広がりに向けた取り組みが必要</u> 。		
	今後に向けて	見守り隊の活動ポイントの拡大と隊員増加に向けた取り組みを推進する。		
③	事業名	環境美化活動の推進	決算額	250,169円
	目的	清掃活動の協力体制の確立と推進及びゴミ出しやペットのマナー向上の啓発		
	実施内容	①草刈り隊による清掃活動の実施 ②不法投棄防止啓発用品(幸福神社)の設置活動の実施 ③ゴミ出しマナーアップ啓発チラシの配布		
	実施時期	①夏季及び10月第3日曜日、②通年、③2月		
	参加人数	草刈り隊(24人)		
	成果	草刈り隊と地域が協力した清掃活動体制が定着しつつある。また、幸福神社の設置を随時拡大しており、不法投棄減少に効果をあげている。		
	評価	地域のボランティアで草刈り隊を編成し、高齢化の進行に伴い、 <u>該当自治会のみで対応が困難</u> となっている道路わき等の草刈りについて共同して清掃活動を行う仕組みが定着している。高齢化が進む地域において、 <u>お手本的な取り組みと高く評価できる</u> 。しかし、草刈り隊自体も高齢化が進んでおり、 <u>仕組みを継続していくためには、新たな人材の確保が不可欠</u> となっている。		
	今後に向けて	引き続き取り組みを推進する。		